

Matte High School Library News

石川県立松任高等学校図書委員会、平成28年4月号、No. 9

新年度が始まり、二週間過ぎました。今回は新しく松任高校に赴任して来られた、先生3人におすすめの本を紹介していただきました。全て図書館にある本なので、ぜひ読んでみて下さい。他の新任の先生のおすすめの本も次号で紹介していきます。お楽しみに！図書委員会も開催されました。新メンバーで生徒の皆さんが楽しめるイベントを企画していきます。初めて使う方は、カウンターにある図書館の利用案内をどうぞ。



新任の先生オススメ本 vol.1

※全て本校図書館に所蔵有り。

うえむらさちこ

植村 祥子先生 (地歴公民・25H 副担)

書名: 「すべてがFになる」シリーズ

著者名: 森博嗣 角川書店: 刊

知人に薦められて読んでみると、結構面白くて、次の作品、その次…と読むのが楽しになっていきました。

主人公は、N大学工学部建築学科の助教授・犀川創平と、同学科の学生・西之園萌絵。この2人の周りの人々が、奇妙な事件に遭遇し、ミステリー好きで好奇心旺盛な萌絵が、犀川助教授を巻きこんで、事件を解決していくのが基本的なストーリーです。事件の複雑さにも魅力はありますが、萌絵と犀川助教授の関係も展開が気になります。

『すべてがFになる』はドラマ化したので、タイトルを聞いたことがある人は多いと思います。特にドラマを見たという人は、ぜひ原作も読んでみてください。ただし、森博嗣氏のこのシリーズは、1冊1冊が厚い！けれど、一度ハマったらなかなか抜け出せなくなりますので要注意。

もりべ はじめ

守部 元先生 (国語・33H 担任)

書名: 白い巨塔1～5

著者名: 山崎豊子 新潮社: 刊

何度も映像化され、その都度高い評価を受けている「白い巨塔」の原作です。私がこの作品と出会ったのは、小学校2年生のころです。当時放映していたTVドラマ(田宮二郎版)の影響を受けて、父の書棚から勝手に持ち出して読んでいたことを覚えています。もちろん内容などすべて理解できるはずもなかったのですが、圧倒的な筆力に感動し、文を追った記憶があります。作品が誕生してから50年ほど経過していますが、未だ色あせない傑作です。是非、一読をお勧めします。



ブックマップ『ラノベ』

「とある魔術の禁書目録」を中心に本と本をキーワードでつなげるブックマップを図書委員が作成しました。ライトノベルを22タイトル紹介、そのうち12タイトルは本校図書館に所蔵している本です。図書館からすぐの階段下の掲示板に掲示しました。



図書委員役員紹介

図書委員長 3年男子

副委員長 3年男子

副委員長 1年男子



新着図書案内 (4月購入分)

『とある魔術の禁書目録』⑩『大正箱娘』『暗殺教室』
『SAO』⑩『GGO』③④『おそ松くん』『下流老人』
『ホーンテッド・キャンパス』⑨『震災学入門』
『神様に一番近い動物』水野敬也: 著『貧困世代』
『江之島西浦写真館』『おとなになるってどんなこと』
『三つの塔の物語』赤雪トナ: 著『孤独の価値』
『フランス人は10着しか服を持たない②』
『また同じ夢を見ていた』住野よる: 著
『ハイキュー!! ショーセツバン!!』VI
『読まずに死ねない哲学名著50冊』『女子の兵法』
『坂の途中の家』角田光代『まぐ子』西加奈子: 著

さんばい しげる

三益 滋先生 (英語・13H 担任)

書名: 学年ビリのギャルが1年で偏差値を40
あげて慶應大学に現役合格した話

著者名: 坪田信貴 KADOKAWA: 刊

映画化もされ、かなり話題になった本なので、「今さら」と思われるかもしれませんが…。

教師である私が面白いと思ったポイントは、筆者の生徒との接し方、主人公「さやかちゃん」の勉強方法、そして、彼女を支える母親「ああちゃん」と学校とのやりとり。「さやかちゃん」のように可能性を秘めた生徒を自分はどうか導けばよいのか。自分の事のように想像してしまいます。もちろん生徒が読んで面白く、きっとやる気が出ますよ。



春の読書週間 特別貸出

4月25日(月)～5月13日(金)の期間、貸出冊数の上限を **5冊** にします。(普段は貸出上限3冊) 読書週間に、本をたくさん読みましょう。春の俳句を募集中。俳句ポスト横の用紙に、書いてみませんか。